みんなで考えよう公共交通㊾

祝！運行5周年!!
湯舟のりあいタクシー

問い合わせ　大竹市地域公共交通活性化協議会（自治振興課内）☎㊾2142

湯舟のりあいタクシーは、平成24年1月23日の実証運行開始から5周年を迎えます。湯舟地区では、実証運行から本格運行への移行を目指し、地域で取り組みを進めています。

湯舟のりあいタクシー導入の背景

市では、平成20年3月に「大竹市地域公共交通活性化協議会」を設置。市民のための持続可能な公共交通体系を構築するため、その基本方針ならびに具体的計画を立案した「大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定し、地域の生活交通（支線交通）を導入するための仕組みを作りました。

湯舟は坂の多い地区であり、地域の高齢化が進む中で、生活に必要な交通手段を望む声が高まっていました。

そして、湯舟地区を住みよい町にするために地域住民を中心に、自分達で考え、生活交通手段を確保する取り組みが始まりました。

湯舟のりあいタクシー導入までの経緯

平成23年7月
運行を希望する有志による「湯舟町乗合タクシー導入検討会」が発足し、検討を開始

平成24年1月
湯舟地区で実証運行開始

平成24年12月
利用状況を検証し、改善策を検討するため、「湯舟町乗合タクシー導入検討会」を「湯舟のりあいタクシー運行委員会」へ移行

湯舟のりあいタクシー運行委員会の様子

利用状況・運営状況

運行開始当初は、1月あたりの利用者数が21人でしたが、平成24年度には9人にまで減少しました。その後、平成25・26年度も1月あたりの利用者数が20人程度という状況が続いていましたが、平成27年度に運行内容を見直し、地域に利用を呼びかけた結果、1月あたりの利用者数は30人にまで増加しました。そして、平成28年度（10月末時点）は、1月あたりの利用者が62人、1台あたりの利用者数も1・77人と、前年度の数値を大幅に上回る結果となっています。

また、収支率は、減少傾向にありましたが、平成28年度は約37％とかなり改善されています。

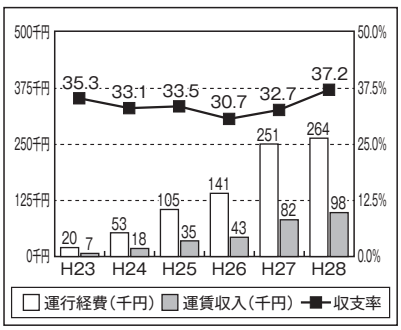
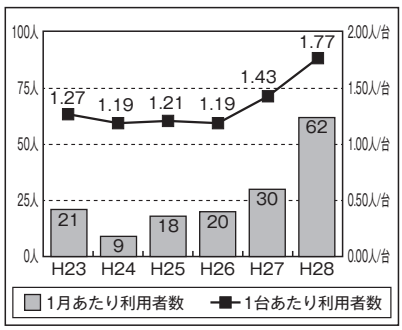
※　収支率とは、運行経費に対する運賃収入の割合のことです。

現在は実証運行中ですが、平成28年10月末時点では、運行委員会で決めた本格運行へ移行する基準を達成しています。このまま現在の水準が維持できれば、来年度は、本格運行へ移行します。

本格運行へ移行する基準

①収支率35％以上
②1月あたりの利用者数60人以上

交通手段にお困りの地区は

移動手段が無くて困っている地域で、住民の皆さんが「自分たちで考え、創り、守り、育てる」という想いを持つ地域を応援します。少人数でも構いません。一緒に考えていきましょう。詳しくは市地域公共交通活性化協議会に問い合わせてください。

湯舟のりあいタクシーの利用状況・運営状況